## ―森　浩　議員―

### 原生花園の木道整備について

**問**

原生花園の草原エリア側に木道を整備するため、調査及び実施計画に取り組むようですが、国定公園であり、貴重な動植物が生息する場所でもあるので厳しい制約もあると思います。

そのような諸問題は解決できていますか。

また、木道が完成後の宣伝方法や維持管理についても、どのような対応を考えているか所見を伺います。

**答**

設置場所の調査については、平成26年の夏に実施し、支障ない範囲で設置できると報告を受けています。

現在の計画では、木道の幅は1.8メートル、長さ130メートル程度を予定しており、直線ではなく、植物を避けながら設置する方法を考えています。

完成後の宣伝方法及び維持管理については、まだ具体的に決まっていませんが、いろんな宣伝媒体を利用して大いに宣伝していきたいと思います。

**再問**

原生花園には貴重な生物が数多く生息していますので、植物の移植など、業者任せではなく、ぜひ専門家の意見も聞いて進めてほしいと思います。

また近年、濤沸湖の付近に雑木がどんどん生えてきて景観的に見苦しくなっています。

伐採できるのか検討してほしいと思いますので、所見を伺います。

**答**

小動物については、専門家の先生の意見を聞きながら進めていますが、植物の移植及び雑木の伐採も含めて、オホーツク総合振興局と協議したいと思います。

## ―八木 勝正　議員―

### 商工業の振興について

**問**

住宅リフォームの一部助成やふれあいスタンプ事業、プレミアム商品券の販売事業への補助など、商工業振興の取り組みについて非常に感謝しますが、まだまだ厳しい経営環境にあることに間違いないと思います。

更なる支援が必要だと考えますが、平成28年度で住宅リフォームの助成事業は終了します。

それに代わる振興策を関係機関と検討し、商店街、町の活性化を図ってほしいと思いますので、町長の考えをお尋ねします。

**答**

新しい施策については、商工会と協議をして、平成27年度中に意見交換をする予定になっています。

一例として、商店街で新規店舗を開業する方への支援制度を町から提案していますが、その他にも商工会と意見交換しながら、平成27年度中には目途をつけたいと考えています。

### 道立高校間の連携について

**問**

町政執行方針の中で、小清水高校について隣接校である清里高校との道立高校間連携に取り組むとありますが、具体的な取り組みについてお尋ねします。

**答**

現在は、北海道教育委員会が、道立高校間連携の取り組みとして、小清水高校と清里高校の教員を相互に派遣する連携教育に取り組んでいます。

ご承知のように、小清水高校は平成28年度から入学募集停止となります。

生徒数の減少に合わせて教員数も減少しますが、高校教育に支障がでないよう、町からも要請していますのでご理解願います。

**再問**

教員の連携だけではなく、部活動や学校祭など、もっと色々な分野で連携がとれるように協議していただきたいと思いますが、所見を伺います。

**答**

現在も、部活動で高体連に出場する時や、教科によっては一部交流学習を実施しています。

これからも充実した連携ができるよう、北海道教育委員会に要望していきたいと思います。

**議会を傍聴してみませんか**

事前申し込みなど面倒な手続きはありません。お気軽にお越し下さい。

【お問い合わせ先】
小清水町議会事務局
☎ (62) 4477 (直通)





### 高校生の通学支援について

**問**

小清水高校の入学募集停止により、平成28年度から子供たちは町外の高校に通わなければなりませんが、町としてどのような支援策を考えているか伺います。

**答**

小清水町は、道立高校の通学区域がオホーツク東学区になります。

北海道の補助制度で、同じ学区の清里、斜里、大空、網走の高校に通学する場合には、定期券購入額の一万円を超えた金額を補助してもらえるので、当面はその制度を利用することで考えています。

しかし、自家用車での通学は補助対象にならないので、バスが運行していない斜里と清里への通学支援について課題が残ります。

北海道教育委員会との協議の中では、スクールバスの運行や保護者が民間バスを借り上げて運行する場合には一定の補助をしてくれるとのことですが、予想される生徒数と経費を比較してもなかなか難しいと考えます。

一方、清里町では、清里高校の生徒数減少で、小清水中学校生徒が多数入学してくれることを希望していますので、通学手段や財政的な面など、清里町教育委員会とも情報交換をしていきたいと思います。

**再問**

斜里や清里に通学するには、やはり公共の交通機関が必要だと思いますので、ぜひとも検討してほしいと思います。

再度所見を伺います。

**答**

近年、斜里や清里に通学する生徒は少数なので、募集停止後、人数が増えたとしても、10人に満たないのであれば、バスの運行ではなく、自家用車の燃料代の補助という方法も一案と考えています。

更に清里高校では、存続のために色々努力されているので、今後どのような対策を考えているのかも含めて、近隣の教育委員会と情報交換をし、保護者にも充分情報提供しながら進めていきたいと考えていますのでご理解願います。

## ―槻間 善高　議員―

### 青果生産支援サポート事業について

**問**

近年、農家の耕作面積の増加に伴って労働力も不足し、青果物、特に人参の作付面積が減少しています。

このような中、平成27年度から青果生産支援サポート事業が新たに実施され、運搬車購入について、町で補助をするようですが、事業全体の内容についてお聞きします。

**答**

ご指摘のとおり、人参の作付面積は年々減少傾向にあります。

この状況を受けてJAこしみずでは、人参だけではなく青果物を減少させないため、青果生産支援サポート事業を実施し、道の補助を受けて収穫ハーベスターを1台導入することになりました。

ハーベスターの操作は職員がおこない、収穫時には各農家をまわって労働力の軽減を図るそうです。

それに伴い、ハーベスターの輸送にトラックが必要になりますが、トラックは道の補助対象にならないため、その部分についてJAこしみずから町に支援の要請がありまして、協議の結果、トラック購入金額の20％を補助することにしましたのでご理解願います。

## ―工藤 孝一　議員―

### まち・ひと・しごと創生に向けた総合戦略について

**問**

昨年の5月、日本創生会議において消滅可能性都市及び消滅自治体名が公表され、消滅が避けがたい自治体は、周辺にある地域拠点都市との連携を進めるべきだとしました。

これをうけて、小清水町の未来は今後どのように開けるのか所見を伺います。

**答**

小清水町の未来が明るいとは、少なくとも今の段階では断言できないと思います。

しかし私は、常に自主自立のまちづくりを基本に据えて努めていますので、今後も自主自立を基本に計画を策定し、更に近隣の自治体とも協力しながら、広域行政も念頭において進めていきたいと思います。